

# 令和3年度 学校評価報告書

学校名	三田市立けやき台小学校
-----	-------------

## 1 学校教育目標

夢に向かって 堂々と歩む子の育成  
 ～あきらめず挑戦し 自尊感情を高めるけやきっ子～  
 元気で明るい子・やさしく素直な子・興味を持ち、伝え合って学ぶ子  
 けやきの A(エース)をめざせ

## 2 今年度の学校重点目標

- ・けやきの A の育成  
 「あかるくあいさつができる子」「あきらめず挑戦する子」「友だちを大切にできる子」
- ・教育の専門家としての高い使命感を持ち、学び続ける教師の育成(研修・研究)
- ・「チームけやき」として学校同僚や家庭・地域との連携を大切に組織的に取り組む学校
- ・児童の自治的活動を支援する学校(30周年記念式典)
- ・地域の教育力を取り入れ、学校力を高める地域連携のできる学校

## 3 総合的な自己評価

今年度から、職員・保護者・児童の学校評価アンケート内容をより深く分析するため、三者の結果も比較できるようにアンケート内容の項目を整理し学校評価アンケートの内容と文言をリニューアルして行った。今後は、経年比較しながらの評価も行いたい。

今年度の三者それぞれのアンケート結果は、ほとんどの項目で肯定的(あてはまる・少しあてはまる)評価が目標値の80%を大きく超え大変良好であった。その中において、「読書」に関する結果は三者とも肯定的評価が80%を下まわり本校の課題ととらえることができる。「読書」は、読解力や想像力、思考力など児童につけたい大切な力の向上につながる。学校司書や委員会と連携し環境を整え、家庭とも連携しながら、読書に取り組む習慣や本に出合う機会設けていきたい。

「学校の勉強はわかる」「学校の勉強は楽しい」「分からない勉強をしっかり教えてくれる」「学習のめあてをもち、あきらめず努力している」については、肯定的評価がどれも90%を越えている。本校の研究「算数科」において、朝の学習タイムでの継続した算数プリントの取り組み、また、まず自分で問題と向き合い、図や絵を用いながら自分の考えを友だちと交流して学んでいく授業の取り組みの成果ととらえられる。

生徒指導面では、ケース会議等を実施することにより、職員が情報を共有し、より良い支援の仕方を検討し、児童に働きかけることができた。あいさつ、言葉遣い、清掃活動等も含め基本的な生活習慣については、学校・家庭・地域が連携して子どもたちを育む取り組みを今後も継続していきたい。

## 4 総合的な学校関係者評価

今年度、学校評価の項目を整理し、教育活動等についてより丁寧に検討されようとしていた姿勢に敬意を表する。

今年度もコロナ禍の中、たいへん難しい学校運営がなされたことと推察されるが、校長のリーダーシップのもと、感染対策を徹底し、組織的・計画的に様々な教育活動を実施できた点は大いに評価できる。HP 等を用いて日頃から積極的な発信を行われていることで、学校の姿勢がうかがえる。

また、子どもたちの力を伸ばすため、教職員の資質向上に継続的に努めており、「学びに向かう力を育てる」というテーマで研修を深められている。今後も、子どもたちが主体的に考え、学んだことを生かせるような指導をお願いしたい。

重点的な課題と示された「読書」については、学校司書や図書館、家庭との連携を図り、取組を進めていただきたい。読書環境の整備等、地域や学校支援ボランティアとの連携も試みてほしい。

その他のボランティア活動についても、コロナ禍において実現できなかった面もあり、できることから積極的にかかわる機会を作っていくていただきたい。また、地域での子どもたちの安全安心についても、関係機関と連携・協力を図り、学校・家庭・地域が一体となって、児童の育成に努めてまいりたい。

## 5 評価結果

自己評価		学校関係者評価		
分野・領域	評価項目(取組内容)	評価結果及び分析	改善の方策	学校関係者評価委員会の意見
教育目標 教育方針	教育目標及び教育方針、学校重点目標が、児童や地域、学校の実態や、教育課題に即応している。	・「けやき台小学校が好きだ」の肯定的評価が95%と大変良好である。しかし、残りの5%の児童のことを考えると、緊急事態宣言等の関係で、2学期にたくさんの行事が集中し、日々の学習により児童が疲弊している結果の可能性も考えられる。 ・感染拡大防止に努めながら、活動を縮小しつつもできる範囲内で、毎日の登下校の見守り隊、かたつむりさんによる読み聞かせ、がんばりタイム、授業におけるゲストティーチャー等、様々な場面で学校支援ボランティアと連携を取り、地域の方々や保護者の協力を得ながら、教育目標の達成に向けて取り組みを進められた。 ・学校行事や学級会など、あらゆる場面で児童を目標に立ち返らせ、意識付けながら取り組めた。学年、クラスの目標をより意識して取り組むことで、それぞれの努力事項を意識した教育活動が行えた。	・with コロナととらえ、来年度の年間行事計画を見直すとともに、今まで以上にしっかりと、毎時間の児童の学習の様子を伺い、進捗を考えるとともに、子どもたちがわかる、楽しい、ワクワクするような授業づくりを学年で協力しながら行っていく。 ・昨年度までの取り組みを継続し、今後も感染拡大防止に努めながら、学校・家庭・地域の連携を密にし、学校教育目標の達成に向け、クラスの実態や児童の様子を担任だけでなく学年、学校全体で共有し、児童を中心に考えた教育活動を展開していく。 ・キャリア教育の視点からも、学校、学年、クラスの目標を意識し、一年を通して各教科学習や特別活動、学校行事等の各場面において、児童に目標を意識させたり、振り返らせたりする機会を継続して設ける。	・子どもたちが「小学校が好きだ」と感じられていることが大きな成果である。 ・「けやきのエース」というキャッチフレーズがわかりやすく、学校全体で共有し取り組まれていることは大いに評価できる。 ・今後も子どもたちの意欲や達成感を大切にした教育活動を進めてほしい。
	めざす児童像、教師像、学校像の具現化に向け、本年度の学校重点目標を意識した指導ができています。	・「けやきのAエース」の合言葉を教室の前面に掲示し、教師もその合言葉を使い声をかけることで、児童にも合言葉が浸透し、意識できている。 ・本校の研究「算数科」だけでなく、「人権教育」「特別支援教育」「生徒指導」「情報教育」「外国語科」等、計画的に職員研修を持ち、資質向上に努めることができた。 ・「めざす児童像、教師像、学校像」を意識し具現化を図るため、教師間の連携を密にするとともに、保護者・地域への協力を得ながら学校全体で子どもたちを見守っていく必要がある。 ・めざす児童像にある、あきらめず挑戦や、あいさつに関して、継続して取り組んでいく課題である。	・学校生活の中で、児童をほめたり、がんばりを認めたりする等、自尊感情を高める肯定的評価の言葉がけを意識し、教育活動に取り組んでいく。 ・今後も教師間での切磋琢磨を続け、子どもたちが勉強するのが楽しくなるような魅力ある授業づくりに一層努める。 ・今年度のデータを来年度の指導に活かすことができるよう共有ファイルに保存し、学びの継続と業務改善に取り組む。	
教育課程	教育課程の編成(週時程・日課表・行事等)は適切である。	・緊急事態宣言やまん延防止等重点措置により、運動会・音楽会・自然学校・修学旅行等大きな学校行事が2学期に集中する結果となった。児童、教師とも常に次の行事に追われた。 ・平日開催での運動会、学年単位のハンズクラブや合奏形式の音楽会など、感染拡大防止のため制限のある中、例年より縮小した形での学校行事であったが実施することができた。子どもたちは達成感を味わい、自尊感情を高めることができた。	・学校行事や各教科の年間指導時数を常に把握し、児童の理解度、スピードに合わせた授業計画をしていく。 ・高学年の教室の移動時間を確保し、授業の開始時刻を意識して取り組む。 ・来年度の年間行事計画を、児童の負担とならないよう年間を通じて偏りのない計画をしていく。	・コロナ禍の中、行事の延期や内容の見直しを丁寧に行われ、実施できたことは大いに評価できる。 ・iPad が完備され、子どもたちの学習環境も様変わりする中、今の時代に合った教育活動が進められるように、今後も計画して行ってほしい。
	各教科・領域における授業時数は適切に確保できている。	・2学期に行事が集中したため、計画を組みかえ3学期に単元を変更したりする学年もあった。 ・特別の教科道徳や中学年、高学年の外国語活動、外国語科、情報教育等新しい教科、教育について研修を進めることができた。	・新学習指導要領の理念を踏まえた上での基礎基本の定着と、思考力、主体的に取り組む力(粘り強く学習に取り組む力、学習調整力)を伸ばせるような授業改善に努めていく。 ・新学習指導要領に基づく、年間授業時数を意識した行事計画を行っていく。 ・若手教員の育成に向けて、学年を中心に授業交換や授業参観を行い学ぶ場を設ける。また、授業研究に取り組む積極的に授業公開を行っていく。	
学習指導	各教科の基礎的・基本的な内容を確実にとおさえ、評価の基準を定め、指導方法を工夫して理解の徹底を図ることができている。	・学年で、授業研究と共に評価ポイント、評価方法などを話し合い、共通理解の基、計画的に指導を進め評価できた。 ・子どもたちの自治的、自主的な力の育成を目指し、全学年で話し合い活動の進め方やふり返りの仕	・本校の研究「算数科」の授業研究・研修を今後も続け、問題を解く過程を説明していく対話的活動を取り入れながら、思考力を育成する授業に取り組んでいく。 ・読む・書く・話す等、国語科で培った言語力を他教科	・算数科の授業研究を中心に、先生方が共通理解しながら学校全体で取り組まれていることが、子どもたちの力に結びついている。「楽しい授業」「よくわかる授業」

		方を改善し、活動の中でお互いの良さを認め合える特別活動の授業づくりのための研修に取り組んだ。	でも生かせるような教科横断的な取り組みの推進をしていく。 ・学びの基礎である基本的な計算力や漢字の定着を目指して、計算練習・漢字練習の時間や補充学習の時間の確保を継続する。朝の学習タイム(計算)を継続する。	を今後も追求して行ってほしい。 ・教育活動全体で、子どもたちが活躍する場面を増やし、今後も意欲や達成感を感じられるように取り組んでほしい。
	確かな学力を身に付けさせるように、自ら学習する意欲を高める、工夫ある授業づくりに努めている。	・学年で授業について打ち合わせの時間を取り、授業研究を進めることができた。 ・ノートを大型モニターに映して自分の考えを説明したり、プレゼンテーションソフトを用い、調べたことをまとめて発表したりするなど、授業においてiPadを効果的に使っている。 ・家庭学習に自主的に取り組む姿勢に少し課題が見える。	・児童が思わず引き込まれる、考えたくなる、熱中できるような授業を展開できるよう、校内や学年でさらに授業研究に取り組む。 ・児童・保護者にも意識できるよう働きかけ、家庭と連携して基本的な学習習慣を身に付けさせたい。(家庭学習、自主学習の手引き等)	
	個々の児童の到達段階の把握に努め、一人ひとりの基礎学力づくりに取り組んでいる。	・高学年での算数での少人数指導体制を活用して個々の実態に応じたきめ細やかな指導に努めている。 ・各教科において、授業のめあてとふりかえりを意識して取り組めた。	・「がんばりタイム」を継続して実施し、児童の基礎学力づくりができる体制を整える。 ・今年度の児童の実態を次年度に引き継ぎ、児童一人ひとりに有効な指導を続けられるようにする。 ・ふりかえりを、自己調整力に結び付けて、粘り強く学習に取り組む力の育成を目指す。	
	夢を持ち、挑戦する意欲を育てることができている。	・30周年記念式典では、夢プロジェクト、本校卒の岡崎選手からのメッセージなど、子どもたちが自分の夢について考える企画を行なった。 ・4年生、6年生の総合や道徳科、キャリアノートなど各学年で計画的に、自分を見つめ振り返ったり、未来について考えたりする時間を持っている。	・授業だけでなく、学校行事、クラスの当番活動や係活動、高学年の委員会など、場面ごとに、めあてとふりかえりを大切にし、挑戦できているか、最後まで取り組めたかを考える機会を通して達成感を味わわせていく。	
生徒指導	学校いじめ防止基本方針に基づき、校長・教頭の指導のもと、全職員が連携し、問題行動や不登校、いじめ等の問題に組織的に取り組んでいる。	・いじめ等の緊急の指導事案、児童の抱える問題等について、生活指導委員会を中心に、組織的に取り組んでいる。 ・ケース会議を実施し、SSW・SC・指導補助員とともに児童に対し、よりよい支援方法を検討している。 ・携帯・スマホ・SNS等の問題について、1～6年生まで発達段階に応じた動画を見て学習を行った。	・児童が誰かに相談しようと思えるための意識付けや、相談しやすい環境、時間の確保など学年に応じてできる事を考えていく。 ・問題行動や事案等、指導内容等を諸対応メモにまとめ、回覧することで、関係職員、教員全体で共通理解できるようにする。 ・学校・家庭・地域が連携して子どもたちの成長を見守っていく体制づくりを推進する。 ・今後も、SSW・SC・指導補助員や関係機関との連携を深め、児童に対し様々な方面から支援の方法を検討していく。 ・携帯・スマホ・SNS等の問題についての指導については、今後も全学年で継続して指導を続ける。	・地域で子どもたちと出会う時にも、気持ちのよいあいさつがかえってくるのが成果として表れている。 ・刻々と変化するネットやSNSの問題については、児童の実態をしっかりととらえ、積極的に指導して行ってほしい。家庭との連携も大切である。 ・登下校や地域でくらしの中でも、安全安心が確保されるよう、関係機関と連携し取組を進めていくことが大切である。 ・近所との付き合いが希薄な中、心を許せる人がいることが身近にいることが大切。地域のつながりを考えていかねばならない。子どもたちは、気持ちを許せる人に対しては、しっかりとあいさつできている。
	あいさつや清掃、その場に合った言葉遣いなどの基本的な生活習慣・マナーを確立するように指導ができている。	・マスク着用、ソーシャルディスタンス等制限のある中ででのあいさつに対する指導、心と心のつながりについて指導を行い、目と目を合わせて会釈するあいさつ等もできるようになってきた。 ・普段から生活の場でのあいさつができる児童は増えてはいるが、まだまだ少ない。(地域の中での自発的なあいさつ) ・「感謝のつどい」を通して、「感謝」や「あいさつ」の意義を考えることができた。子どもたちが実生活における「あいさつ」に意欲を持つ機会となった。 ・あったか言葉、場に応じた言葉遣いや、相手のことを考えて話すことなど、特別の教科道徳での指導も含め、指導してきた成果が表れてきた。	・家庭・地域と連携し、日頃から生活の場において、あいさつの大切さを伝えていく。 ・あいさつすることが当たり前であると感じられるような校内の雰囲気や教職員から創り出して行く。(声掛けの実施) ・あいさつや言葉遣い、掃除など、できていることに対して肯定的評価を意識して増やしていく。 ・掃除に対しては、方法の指導だけでなく、その意味を児童とともに考えていくとともに、掃除や整理整頓については、家族の一員としての役割を保護者とともに考えていきたい。	
特別支援教育	特別な配慮や支援を要する児童の児童理解に努め、指導に活かしている。	・特別な支援を要する児童について、個別の指導計画や教育の支援計画を適切に作成し、それらを活用することができた。 ・職員会議、職員打ち合わせの場で、児童の状態や情報を共有し、対応できた。	・継続して、児童理解研修会や特別支援に関わる研修を計画的に行っていく。	・子どもたちのことを丁寧に理解し、計画的に取組を進められており、今後も同様の体制を整備して行ってほしい。 ・十分な人員の確保についても強く望む。
	学校や関係機関、家庭との連携調整を図り、支援体制を充実させている。	・校内委員会の設置、特別支援コーディネーターとの連携、職員研修の実施等、特別支援のための校内支援体制が整備され、適切な支援が行われた。	・職員間で児童の状況を共有し、支援が必要な児童に適切な支援が行えるように、今後も継続して体制を整えていく。	
保護者・地域住民との連携	PTA・地域ボランティアとの連携により、教育環境整備を行い、地域の核となる学校づくりを進めている。	・コロナ禍で保護者や地域の方々の来校に制限がかかる中、保護者に校内の様子をより分かりやすく伝えるため、HPを頻りに更新し、本校の取り組みを発信することができた。 ・家庭科の学校支援ボランティアやダイアツ、大阪ガス、ササユリの会や福祉ボランティアの斎藤さんなどゲストティーチャーとの学習、地域の自然や文化、施設を活用した学習を継続して取り組むことができた。	・HPの定期的な更新等、今後も情報発信を継続して行う。 ・学校支援ボランティアとの連携を深め、小学校の教育活動について保護者及び地域の方々をボランティアとして招き、支援していただく活動を今後も行っていく。活動内容等、データを残し継続して取り組みやすい仕組みを作る。 ・ゲストティーチャーとの取り組みを、来年度以降もスムーズに連携が取れるようにデータ化して記録を残していく。	・HPや学校だより等を有効に活用し、学校の取組を積極的に発信されていることは大いに評価できる。 ・家庭や地域の協力を得られるよう、今後も学校支援ボランティア等を積極的に活用してほしい。
学力向上指導改善	「学びに向かう力を育てる」算数科の授業づくりを行い、「思考力の育成」に努めている。	・児童アンケート「算数科の学習で、自分の力で考えたり、みんなと交流しながら自分の考えを伝えたりしている」は肯定的評価が91%であり良好である。 ・自分の意見や考え方を発表し、交流を重視した研究の方向性を職員で共有し、学年で取り組み、その積み重ねが主体的に取り組む児童の姿につながっている。	・どの児童も自信を持って、「あてはまる」を選ぶように、授業改善に学年で取り組んでいきたい。 ・学習に困難な児童に寄り添った課題意識を持ち続け、放課後やがんばりタイム等でフォローしていく。 ・朝の学習タイムを継続し、計算力の定着を図る。	・重点的な課題と示された「読書」については、学校と家庭が連携した取組が必要である。また、読書がしやすい環境をつくっていくことも重要である。 ・家庭内での子どもたちの読書の時間を作るためには、親も同じ読書の時間を共有する必要がある。「読みなさい」という声掛けだけではなく、親も教師も読んでいる姿を見せることや、興味を持てる本を探すことから一緒に始めることが大切。 ・発達段階や、個人の読書力に合わせた本を見つけさせてほしい。 ・「読書」と「体を動かす」は対極にあると感じる。コロナ禍だからこそ、家庭内で読書する機会となる子もいれば、コロナ禍でストレスをためている子どもたちが体を動かしたいと思ったり、読書に向かない子もいると思う。 ・学力だけでなく体力や主体性など、総合的に子どもたちを伸ばすよう今後も取り組んでほしい。
	すこやかな体づくりをめざした取り組みを行っている。	・児童アンケート「体育の時間や休み時間に進んで運動したり、体を動かしたりしている」の肯定的評価は90%であり良好である。 ・緊急事態宣言や蔓延防止等重点措置のため、体育の活動内容が制限された。その都度、体育部で話し合い、学年のカリキュラムを見直し調整して対応できた。	・今後も状況に柔軟に対応しながら、各学年のカリキュラムを調整し、感染症対策を行い、体育科の授業に取り組んでいく。 ・状況に対応しながら、体育委員会の児童を中心に、大縄大会など積極的に運動に取り組める活動を企画していく。	
	自主的により良い学校づくりに取り組もうとする児童を育てることができている。	・30周年記念事業として、児童会主催でオリジナルマスコットキャラクター、愛唱歌づくりに取り組めた。 ・感染拡大防止対策を行ったうえで、出来る限りの活動が行えた。(一年生を迎える会、けやぎネズ、運動会、6年生を送る会、感謝の集い等) ・限られた授業時数の中で、学年、学級目標を意識し、特別活動での話し合い活動、係活動や委員会活動を通して、より良い学級や学校を作ろうとする意欲の育成が図れた。	・感染拡大防止対策を行ったうえで、今後も児童が自主的に取り組める活動の可能性を考え、場を与えていく。 ・学級会の持ち方、話し合い活動の進め方を特活委員会を中心に校内で職員研修したり、授業公開したりし、児童の話し合い活動の推進に努めたい。	
	読書好きの児童を育てることができている。	・児童アンケート「本を読むことが好き」肯定的評価82%。保護者アンケート「子どもはよく読書をしている」肯定的評価60%であり、本校の課題ととらえられる。 ・図書館司書による本年度の読書アンケートでは、「本が好き」「一日30分以上読む」値	・中・高学年でも、図書室利用の時間が確保できるように意識するとともに、図書室利用時間割を中高学年共に入れていく。 ・今後も、司書との連携を密にして、児童が学習内容と合った興味のある本を学級に用意し、読書に親しめるような環境を整える。(図書ボランティアの活用・計	

		は、去年度よりはやや上昇している。しかし、三田市の平均をどちらも下回っている。 ・高学年になるにつれ「本が好き」「読書時間」の値が下がっている。 ・ブックフレンド委員会の読書イベントが持てた。高学年の参加が少ないのが課題である。 ・国語の教科書の「本棚」の活用を試みた学年もあった。 ・司書を活用し、授業内容と関連した本を書庫で貸し出してもらうことによって、児童の興味に合う本を提供できた。	画的な本の活用) ・学校と家庭とが連携する。その一つとして家庭でも読書ができるような取り組みとして、毎月23日の「家族読書の日」の意識を徹底し、宿題などで読書を出し、本を読む時間を確保していく。 ・読書通帳を活用し、読書の目標、ふりかえる時間を学期ごとに各クラスとする。 ・各学年に「おすすめの本」を作成し、児童の目につくところ(音読カードや読書通帳)にはり、本選びの手助けをしたい。	
人権教育	一人ひとりが大切にされる集団の中で、つながりを深め、自尊感情を育み、確かな学力と差別を許さない人権意識を育てている。	・肯定的評価が多いものの、数は少ないが、マイナス評価に対しても意識したい。継続し問題解決できるように取り組んでいきたい。 ・ハートフル参観が実施することができたが、学級集会はコロナ禍でできなかった。 ・学年で教材研究を進め、特別の教科道徳の学習を進めることができた。 ・講師を招聘し人権教育について職員研修を持つ事ができた。	・ハートフル参観を軸とし、学級集会の場でも保護者への啓発も行っていく。 ・各学年で、授業の指導案やワークシート等をデータ保存し、前年度の指導をもとに積み上げていく。 ・来年度も、人権について講師招聘し研修を継続して行う。 ・LGBTについての指導を充実させていく。	・人権教育については、一人ひとりが大切にされる地域や社会の実現のためにも、積極的に取り組んでほしい。保護者・地域とともに学んでいきたい。
感染症対策	「新型コロナウイルス感染拡大防止」に向けて、組織的に対応と指導を行っている。	・手洗い、消毒、行間休みの体調チェックが児童に浸透している。 ・教室や階段の手すり、トイレ、水道など消毒の徹底を衛生スタッフとともに行えた。 ・始業式や終業式など節目において、感染症対策の意識が薄れないよう全校生を対象とした指導が行えた。 ・学校での感染症対策の取り組みを「ほけんだより」等で保護者に発信できた。	・日常における感染症対策だけでなく、行事等での感染症対策についても、具体的に保護者に知らせていく。 ・手洗い、マスクの着用、消毒など今後も継続した指導で維持、向上できるように意識を高く持つ。 ・各学年の児童の実態に合わせ、感染拡大防止につながる学校生活における細やかな指導や、その心遣いや行動が友だちを大切にすることに繋がるという指導を行っていく。 ・トイレの改修要望を市に対して継続して上げていく。 ・事故防止、防犯対策、緊急時対応に関しては、今後ともスピード感を保ち、適切な配慮と指導を心掛けて行う。	・感染拡大の時期もある中で、学校として最大限の取組をされたと大いに評価する。 ・しっかり感染症対策がなされているからこそ、学校行事も執り行えることが多かったと感じる。安心して参加させることができた。 ・なかなか終息が見通せないこともあり、今後も継続した取組を期待する。

## 6 学校自己評価の実施状況について

時 期	内 容
10月15日	運動会アンケート実施
11月20日	音楽会のアンケート実施
12月2日	後期教職員学校評価実施 児童・保護者アンケート実施
1月11日	教職員学校評価、児童・保護者アンケートの分析検討
1月31日	学校評価職員会議
3月12日	学校関係者評価委員会の学校関係者評価 学校関係者評価を受け、次年度へ向けた方策検討

## 7 学校関係者評価委員会(学校地域運営協議会)の活動について

時 期	内 容
6月12日(土)	・学校経営方針 ・地域運営協議会の構成と年間計画 ・今年度学校評価について ・学力向上改善プランについて
10月9日(土)	・学校行事、学習状況等について ・今年度のアンケート項目について
10月	運動会参観及び意見徴収
11月	・音楽会、30周年記念行事参観及び意見徴収
1月	・校内図工展の参観及び意見徴収
3月	・学校評価アンケート結果・学校自己評価・総合的な学校評価について報告と次年度への改善内容について ・今年度のまとめ

## 8 学校評価の公表について

時 期	手 段	内 容	添付
4月	PTA 総会・ホームページ	学校評価結果を踏まえて、今年度の目標や指導方針を説明	
適宜	学校便り・学校掲示板	学校評価に基づいた指導について、適宜周知するとともに、自己評価結果及び改善策について保護者に配布(3月)。	
3月	PTA全体役員会・ホームページ	自己評価及び関係者評価を公表	